HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	献辞
著者	郡司，淳; GUNJI，Jun
引用	北海学園大学人文論集(56)：1-3
発行日	2014-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

献　　辞

人文学部長　郡　司　　淳

私たちの敬愛する上杉忍先生と濱忠雄先生が2014年3月末日をもって退任されることになりました。誠に残念ではありますが，ご退任にあたり，学部を代表して送別の辞を述べます。

上杉忍先生は，1976年9月に一橋大学大学院社会学研究科博士課程を単位修得退学後，静岡大学人文学部講師・同助教授・同教授・横浜市立大学国際文化学部教授・同国際総合科学部教授を経て，2010年4月に北海学園大学人文学部教授・同大学院文学研究科博士課程兼担に着任されました。この間，1997年3月には一橋大学から博士（社会学）の学位を取得していらっしゃいます。

先生の在任期間は4年というごく短い間でしたが，北米史Ⅰ・英米文化購読Ⅰ・英米文化基礎演習Ⅱ・演習Ⅰ～Ⅳ・英米歴史文化特殊講義Ⅱ・同ⅡA演習・同ⅡB演習などの学部・大学院の授業を担当されるとともに，ブロック大学の短期語学研修の引率に名乗り出ていただくなど，学部生・大学院生の指導に熱心にあたられました。私は，たまたま先生が指導された院生の副査を担当した関係から，学生を辛抱強く指導しつつ，その成長を温かく見守る先生のお姿を間近に拝見する機会に恵まれ，学ぶところ大でした。

先生のご専門はアメリカ史で，主に南北戦争から1960年代までの南部農村における人種・ジェンダー・階級支配の構造とこれに対する黒人の抵抗について，研究してこられました。その足跡は，聞き取り調査をはじめとする豊富なフィールドワークに裏づけられたもので，『パックス・アメリカーナの光と陰』新書アメリカ合衆国史③（講談社，1989年），『アメリカ南部黒人地帯への旅 ── 黒人運動の源流をたずねて ──』（新日本出版社，

1993 年),『公民権運動への道 ── アメリカ南部農村における黒人のたたかい ──』(岩波書店, 1998 年),『二次大戦下の「アメリカ民主主義」── 総力戦の中の自由 ──』(講談社, 2000 年),『アメリカ黒人の歴史 ── 奴隷貿易からオバマ大統領まで ──』(中央公論新社, 2013 年)をはじめとするご業績にみることができます。

濱忠雄先生は, 1975 年 3 月に北海道大学大学院文学研究科西洋史学専攻博士課程を単位取得退学後, 北海道教育大学教育学部岩見沢校助手・同助教授・同教授を経て, 2003 年 4 月に北海学園大学人文学部教授・同大学院文学研究科博士課程兼担に着任されました。以来今日にいたるまで, ヨーロッパ史Ⅱ・英米文化講読Ⅱ・英米文化基礎演習Ⅱ・演習Ⅰ〜Ⅳ・欧米歴史文化特殊講義Ⅰといった学部・大学院の授業を担当されるかたわら, 2008 年 4 月から 2012 年 3 月にかけて文学研究科長の重責を担われるなど, 文字通り学部・大学院を牽引してこられました。先生には, その顕著なご業績により, 2014 年 4 月 1 日付で名誉教授の称号が授与されることになっております。

先生のもともとのご専門はヨーロッパ史ですが, 旧来の一国史的な枠組みを超え, 当時, 日本はもとより, 欧米でも未開拓の分野であったフランス革命とハイチ革命の相互関係性というテーマにいち早く取り組まれ, 南北アメリカの歴史をも射程に収めつつ, 世界史上初の黒人共和国として誕生したハイチの視座から, 啓蒙思想やいわゆる「人権宣言」などに象徴される「近代」の意味を検証してこられました。その成果は,『ハイチ革命とフランス革命』(北海道大学図書刊行会, 1998 年),『カリブからの問い ── ハイチ革命と近代世界 ──』(岩波書店, 2003 年),『ハイチの栄光と苦難 ── 世界初の黒人共和国の行方 ──』(刀水書房, 2007 年)をはじめとするご業績に結実しております。

両先生は, 同じ歴史学を専攻する私にとってまさに仰ぎ見る先達です。そのご研究は, 文字としての記録を残すことが困難な被支配者を対象としたものだけに, アナール学派以来の「新しい歴史学」が資料化したオーラルヒストリーや図像をはじめとする非文字資料をも読み解くことにより,

はじめて可能となったものにほかなりません。アメリカ黒人とハイチ民衆によりそいつつ，マイノリティ，ローカリティの視点から新たな世界史像を構築することで，私たちを取り巻く現代社会とその直近の過去である近代という時代を問い質されてきた両先生の四十星霜は，歴史が自己の存在から遊離した単なる知的探求の対象に成り下がった昨今の状況を思うにつけ，ことさら輝いてみえます。

上杉・濱両先生には，いつまでもお元気で，私たち人文学部の歩む道を見守っていただきたいと思います。両先生のますますのご活躍とご健勝を祈念し，はなむけの言葉といたします。